

未知への挑み

3年学年通信

2023.10.4発行

藤沢市立秋葉台中学校

●5ヶ月が過ぎました。●

大きな事故や怪我もなく、前期を終了することができました。インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の不安もあり、生徒だけではなく、ご家庭でもたくさんのご苦労やストレスなどがあったかと思います。

明後日から10日(火)の秋季休業日を加えて4連休になり、11日(水)からは後期が始まります。4日間ゆっくり休み、後期も頑張っていきたいと思います。

●通知表が配付されました。●



本日通知表が1人ひとり手渡されました。中学生になり、渡される通知表もこれで5回目です。子どもたちの表情を見ていると、少し緊張している様子でした。

中学校の成績は、観点(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)ごとにA°・A・B・C°・Cと評価され、その合計点数により「5」～「1」と評定されます。「5」～「1」の評定の数字に目が行きやすいのですが、これは観点を得点化し、合計した数で決まります。この「数字」を上げるためには「A」「B」などの観点の評価を上げる必要があります。

そのためには中間テストや期末テストの点数だけでなく、小テスト・ノート・プリントなどの提出物を丁寧に作り、期限を守って出すことが必要です。また、授業中の様子も評価に反映されます。発問に対しての発言や、真剣な態度で授業に臨んでいるかなどが見られています。3年の後期11月に出来る成績は「公立高校入試選抜」に使用される資料となりますので、今後も継続して頑張っていきましょう!

●定期テストとはちょっと違ったテスト●

✎ 11月8日に実力テストを実施します。 ✎

実力テストとは学校の定期テストとは異なり、その時点での自分の学力を図ることができるのが特徴です。その点では受験と同じような内容になるので、しっかりと学習を進めていきましょう。実力テストの範囲を載せておきますので、確認をしてください。



国語	文学的文章・説明的文章の読解 古文の読解 短歌の読み取り 資料の読み取り 語句 漢字の読み書き
数学	前学年までの総合問題 多項式の計算 因数分解 平方根 2次方程式 関数 $y = ax^2$
英語	リスニング 対話文読解 長文読解 文法問題:関係代名詞(主格) 前号までの復習問題
社会	世界地理総合 日本地理総合 歴史総合 現代社会 日本国憲法 三分野融合問題
理科	前学年までの総合問題 生命の連続性 【選択B】運動とエネルギー(仕事とエネルギーまで)

なお、点数のみのお知らせは11月下旬を予定しております。

総合的な、結果シートは12月の配付となります。

●紅葉祭 ～個性の花を満開に～●



●僕たち・私たちの平和宣言●

紅葉祭ステージ部門で発表しました。全文を紹介させていただきます。

6月13日、わたしたちは、修学旅行平和学習の集大成として、広島を訪れました。今から78年前の8月6日、原子爆弾が世界ではじめて投下された地です。その後、原子爆弾は8月9日長崎にも投下され、8月15日、長い戦争は終わりを告げました。

あの日から78年という月日が流れた今、平和な世の中となったのでしょうか。

修学旅行を終え、秋葉台中学校3年生一人ひとりが、「平和宣言」を作成しました。

これから学年代表による朗読を行います。発表を聞いて、平和について考えてもらえたらうれしいです。

私の平和宣言

1945年8月6日8時15分、16万人以上の普通の生活が原子爆弾によって奪われました。罪のない人も、まだ幼い子供達の未来も、真っ赤な炎に焼き尽くされました。幸せそうな笑い声は、言葉にならない悲痛な叫び声となり、心地よい風の音は、全てを焼き尽くす炎の音へと姿を変えました。私は、広島資料館を訪れた際、原爆の被害にあった人達の心の内を考えました。「体がじりじりと焼かれていく痛みを耐えながら、周りで倒れていく仲間をまのあたりにして、まだ助かるという希望を抱くことは出来たのだろうか。」「残された親族はどんなに辛かっただろう。」「何度枯れない涙を流しただろう。」色々な事を考え、私は気がつきました。被爆した人と残された人とで共通する感情があることに。それは、絶望、悲しみ、孤独です。これからの感情はどちらの立場でも感じたとは私は考えます。一度にこんなにもマイナスな感情を抱くということがどんなに辛いのか、私には想像もできませんでした。このような事を考え、知り、そして感じることで私は、平和への学びを深めることができたと思います。今後は、「今ある幸せは、当たり前ではないこと。」「物事をプラスに考えて生きる。」という事を心に秘めて、生活していきたいと考えます。今できる事として、物事をポジティブに考えようと思います。

僕の平和宣言

みなさんは知っているだろうか。1945年8月6日広島に落とされた原爆によって一瞬で広島が変わってしまった事実を。一つの原爆によって多くの被害者が出たことを。現代の中学校三年生と戦争中の十五歳の子達を比べてあることを思った。なぜ生きている時代が違っただけで死ななければいけなかったのかということだ。今の日本と昔の日本では平和か平和ではない違いがあると思った。確かに今の日本も本当の平和ではないかもしれない。しかし、今の日本は平和だというのが広島の平和記念公園からわかる。「戦争の対義語は平和だ」と思っている人が多いと思う。対義語とは意味が真逆の言葉である。けれど僕は、戦争の対義語は平和だとは思わない。なぜなら戦争だけではなく貧困、ジェンダーなどの多くの問題があり本当の幸せになれていない人が世界中に大勢いるからだ。世界中の人々が幸せになれてこそ平和だと僕は思う。これについて今、僕が宣言することは「どんな人にも優しく接する」ということだ。これからの世界で多くの人々が笑顔になることを望みます。

僕の平和宣言

広島のある日、全ては突然だった
強い光とともに、黒い悪魔が 現れた
そして たくさんの人々の明るい未来が一瞬にして奪われた
人々の笑い声は 苦しみの悲鳴に変わった
お母さんの愛情弁当は 食えずに灰となった
待ち遠しかった学校は 地獄へと変わった
そして 美しかった広島は 姿を消した
愛おしかった我が子も 大好きだった彼女も もう二度と帰ってきてはくれない
世界のどこかで 誰かが泣いていて
世界のどこかで 誰かが苦しんでいて
世界のどこかで 毎日のように人が消えている
当たり前じゃないんだ
美味しいごはんも 毎日のあいさつも 友達との会話も 家族との暮らしも
僕は誓う
今よりもっと友達や家族を思いやることを
「ありがとう」を何度でも伝えることを



私の平和宣言

1945年、戦争、そして原爆は、日本に悲しみと苦しみをもたらしました。町は炎に包まれ、たくさんの罪の無い人々の命が奪われ、今になっても、苦しみ続けている人がいます。そして日本は、「もう二度と戦争はしない」と、平和を誓いました。私は、中学校で平和学習をするまで、原爆が落とされた日が言えませんでした。修学旅行を通して、やっと平和の大切さを身をもって実感しました。「戦争はいけない」、「平和が大切」という言葉をたくさん聞いてきました。耳にしすぎて、この言葉の重みを、私は分からなかったのだと思います。戦争について知ること、興味を持つこと。これが戦争をなくす一歩なのではないかと思います。戦争について知り、私は「戦争の原因」を考えました。現代の人の中でも戦争、までとはいかないけれど、もめ事や争いが起きています。戦争の発端も、それらと変わりません。誰かの正義や価値観のぶつかり合いが、争いを生むのだと思います。自分の正義を押し通そうとするから、戦争が起きるのです。私は、この先大人になって、社会を支える一人になる時にも、平和を大切に、いつまでも平和を追い続けていこうと思います。「私は、人の価値観や正義を認め、理解します」「私は、平和や戦争について考え続け、想像し続けます。」

あの日それは何をしたのか

1945年8月6日 あの時 相生橋を目標にそれは落ちた

それは広島の人々から全てを奪った

燃えている 今日 平和の灯火が あの日壊された広島が

今日は暑い 今の気温は三十度 あの時 気温は三千度

見上げた空 少し雲がまじった青い空 それによって青が奪われた黒い空

聴こえた声 遠くで遊ぶ子供のはしゃぎ声 あちこちで助けを求める誰かの声

この建物 今は未来に悲惨さを伝える建物 あの日も誰かが働いていた

あの日までは 同じだった 帰る場所があり 家族がいた

あの日までは何一つ 変わらなかったのだ 今と同じく

あの日も 誰かが遊び 働き 生きていた

なのに 生きる時代が違うというだけで 奪われた

許されているのだろうか 無かった事にしているのだろうか 忘れていいのだろうか

伝えていく人が いなくなる それなら私が伝えたい

私は誓う 平和を大切にし 今を精一杯 生きること この先も あの日のことを 忘れないこと

私は願う この先 十年 百年後に生きる誰かが 平和な生活を 送ることを



私の平和宣言

1945年8月6日8時15分。熱線が、爆風が、放射線が壊していった。私は死体の上を歩いたことがない。三千度を感じたことがない。大切な人を一瞬にして失ったことも、焼けた自分の肌を見たこともない。「平和とは何か。」広島に来たら考えてほしいと、語り部さんに言われた言葉だ。現代の「平和」とは違いすぎて私はよく分からなかった。友達とけんかをしない。テストで悪い点数をとらない。すごく小さなことしか思いつかないくらい私が思う「平和でない日常」は「平和」なものであると理解した。日本は被爆国である。だが、原爆を落としたアメリカだけが悪いわけではない。語り部さんは何度も「戦争をなくす」と言っていた。アメリカを責めるのではなく「戦争をなくす」と言っていた。私たちが考えるべきなのは、誰が悪いかではない。どう戦争をなくすか、なのである。争いが起きたとき、誰が主犯なのかはさほど大事ではない。争いを根本的になくすためには、なぜこの争いが起きたのかを考えるべきなのだとは私は思う。私の平和宣言、
「私は争いをなくすために考え続けます。」